

## 「子どもとサンタクロース」に関する実態調査

71.0%の家庭で「サンタクロース」は存在している／していた！

今年は63.6%の家庭に「サンタクロース」がプレゼントを運んでくる！

「サンタクロース」の存在は「小学校中学年」の時に最も危ぶまれる！？

半数以上の親たちが、「サンタクロース」は『いる』ことにした方が良いと考えている。

冬のビッグイベントのひとつ、クリスマス。子どもの頃、「サンタクロース」を信じていた人も多いだろう。現代の家庭では、どれくらいの割合で「サンタクロース」は存在しているのだろうか。

今回、オウチーノ総研(株式会社オウチーノ/本社:東京都港区/代表:井端純一)は、首都圏在住で30歳~49歳の子どもがいる既婚男女862名を対象に、『子育て』に関するアンケート調査を行った。はじめに「あなたのお子様は『サンタクロース』は『いる』と思っていますか?」と聞いた。結果『いる』と思っているという人が41.7%、『いる』と思っていたという人が29.3%、『ずっと『いない』』と思っている人が4.2%、『サンタクロース』を認識していないが24.8%だった。次に「今年のクリスマスは『サンタクロース』からのプレゼントを渡す(置く)予定ですか?」と聞いたところ、「渡す予定」の人が63.6%、「渡さない予定」が36.4%だった。また、「あなたのお子様は何歳の時に『サンタクロース』が実在しないこと」を知りましたか?もしくは、いつごろ伝える予定ですか?という質問をしたところ、「小学校中学年」が最も多く14.9%、「小学校高学年」が10.8%だった。また、「伝えない/分からない」という人は51.6%だった。最後に「子育てや教育上、『サンタクロース』の存在についてどう思いますか?」という質問をした。結果、『いる』ことにした方が良いと思うという人が53.0%、「どちらとも言えない」が41.0%、『いない』ことにした方が良いと思うが6.0%だった。

### ■調査概要

**有効回答** 首都圏在住で30歳~49歳の子どもがいる既婚男女862名(学生は除く)

**調査方法** インターネットによるアンケート調査

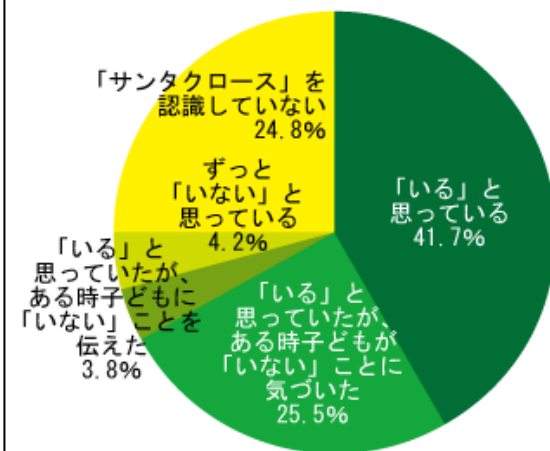
**調査期間** 2016年11月8日(火)~11月10日(木)

### 1. 71.0%の家庭で「サンタクロース」は存在している／していた！

はじめに「あなたのお子様は、『サンタクロース』は『いる』と思っていますか?」と聞いた。結果『いる』と思っているという人が41.7%、『いる』と思っていたが、ある時子どもが『いない』ことに気づいたが25.5%、『いる』と思っていたが、ある時子どもに『いない』ことを伝えたが3.8%、『ずっと『いない』』と思っている人が4.2%、『サンタクロース』を認識していないが24.8%だった。子どもが「サンタクロース」を認識している家庭のうち、最初から「サンタクロース」が存在していないのは、わずか5.6%にとどまった。

『いる』と思っている」と回答した人にその理由を聞いたところ、「毎年プレゼントが届くから」という声が多く、具体的には「小さい頃からずっとそういう形でプレゼントを贈っているから」(49歳/男性)や「プレゼントをもらえると思い、良い子にするとやっているから」(38歳/女性)などが挙がった。

あなたのお子様は、「サンタクロース」は「いる」と思っていますか?



■このリリースに関するお問い合わせや取材、資料ご希望の方は下記までご連絡ください。■

株式会社 オウチーノ(オウチーノ総研/池田) 〒105-0021 東京都港区東新橋2-14-1 コモディオ汐留  
 <TEL:03(5776)1746 FAX:03(5776)1747 E-MAIL:soken@o-uccino.jp>

次いで「そう教えているから」という理由が多く、例えば「まだ『いない』と話していないし、なるべく夢を持たせるよう心掛けているから」(46歳/女性)や「友だちと話していて、『いない』か確認されたが、『いる』と答えたから」(38歳/男性)などが聞かれた。他には「毎年サンタクロース宛に手紙とチョコレートを用意しているから」(34歳/女性)や「どうやって家に入ってくるか気にしているから」(48歳/男性)、「幼児向け番組のクリスマス特集で出ていたのを信じている」(36歳/女性)などの声が挙げられた。

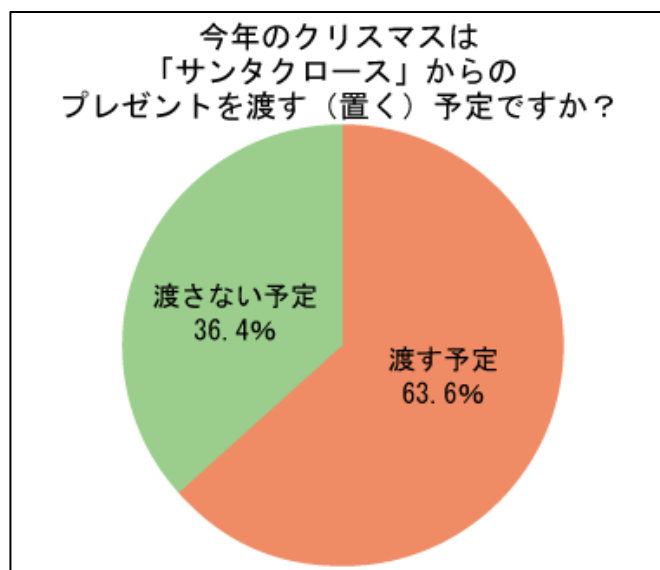
反対に「『いない』と思っている」理由では、「友だちから」という声が圧倒的に多く、具体的には「学校で子どもたちの間で討論となり、『いない』派の意見に納得したらしい」(41歳/女性)や「以前はクリスマスの朝、窓を開けてありがとうと叫んでいたが、10歳頃に友だちから教えてもらったと言っていた」(47歳/女性)などが挙げられた。次いで「年齢的に」という声が多く、例えば「中学生になったのでバレていると思い、伝えたらびっくりされた」(44歳/女性)などが聞かれた。また、意外と多かったのが、「用意しているところを見られてしまった」という失敗で、「クリスマスイブにプレゼントを枕元に置くところをまともに見られてしまった」(45歳/男性)や「サンタクロースからのプレゼントのレシートを見つけてしまった」(44歳/女性)、「サンタクロースに変装していたのが父親だとバレてしまった」(43歳/女性)などが挙げられた。他には「ネット検索で『いない』ことに気づいた」(48歳/女性)や「我が家は現実主義で、最初から嘘をつかずに『いない』と言っている」(43歳/女性)などが聞かれた。

## 2. 今年は63.6%の家庭に「サンタクロース」がプレゼントを運んでくる！

次に「今年のクリスマスは『サンタクロース』からのプレゼントを渡す(置く)予定ですか?」と聞いたところ、「渡す予定」の人が63.6%、「渡さない予定」が36.4%だった。子どもが「サンタクロース」は「『いる』と思っている」と回答した人で、「渡す予定」だという人は94.4%で、9割を超えた。また、「『いない』と思っている」人では33.6%だった。

「渡す予定」だという人に理由を聞いた。最も多く挙げたのは「子どもが『サンタクロース』を信じているから」で、具体的には「子どもが信じているうちは、『サンタクロース』からのプレゼントとして渡したい」(43歳/男性)や「『サンタクロース』に欲しいものを毎日お願いしているから」(41歳/女性)などが聞かれた。次いで「恒例行事だから」という声が多く、例えば「本当のことを分かっているけど、毎年の決まりとして続けているから」(43歳/男性)や「イベントごとや行事は大事にしたいから」(34歳/男性)などが挙げられた。他には「自分が子どもの頃、『サンタクロース』からのプレゼントが楽しみだったから」(37歳/男性)や「できるだけ長く信じていてほしいから」(34歳/女性)、「その日しか玩具を買わないことに決めているから」(41歳/女性)などが聞かれた。

反対に「渡さない予定」という人では、「年齢的に」という理由が最も多く、具体的には「もう、高校3年生なので、親からのプレゼントとして渡している」(46歳/女性)や「小学校6年生の時に、中学生からは両親が『サンタクロース』の代わりになると伝えたから」(40歳/女性)などが挙げられた。次いで「『サンタクロース』を信じていないから」という声が多く、例えば「プレゼントは親からだとは知っているため、その事実を曲げて意味がないと思うから」(49歳/男性)や「『サンタクロ

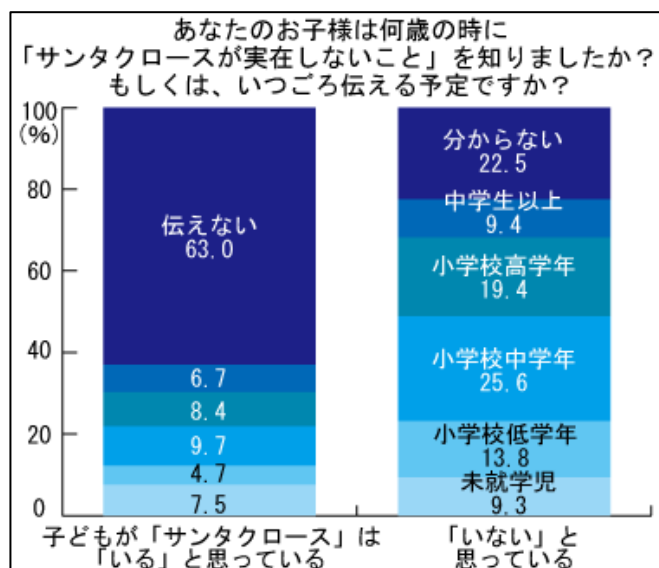


ースがない』と分かった時点で、『サンタクロースからのプレゼントはなし』と決めていたから』(39歳/女性)などが聞かれた。

### 3. 「サンタクロース」の存在は「小学校中学年の時」に最も危ぶまれる！？

次に、「あなたのお子様は何歳の時に『サンタクロースが実在しないこと』を知りましたか？もしくは、いつごろ伝える予定ですか？」という質問をしたところ、「未就学児」が8.7%、「小学校低学年」が7.8%、「小学校中学年」が最も多く14.9%、「小学校高学年」が10.8%、「中学生以上」が6.2%だった。また、「伝えない/分からない」という人は51.6%だった。

子どもが「サンタクロース」は『『いる』と思っている』と回答した人では「伝えない」と回答した人が63.0%だった。また、『『いない』と思っている』人では、「未就学児」の間に気づいた・伝えた人が9.3%、「小学校低学年」が13.8%、「小学校中学年」が25.6%、「小学校高学年」が19.4%、「中学生以上」が9.4%だった。4人に1人の子どもが「小学校中学年」の時に「サンタクロースが実在しない」と知ったことが分かった。

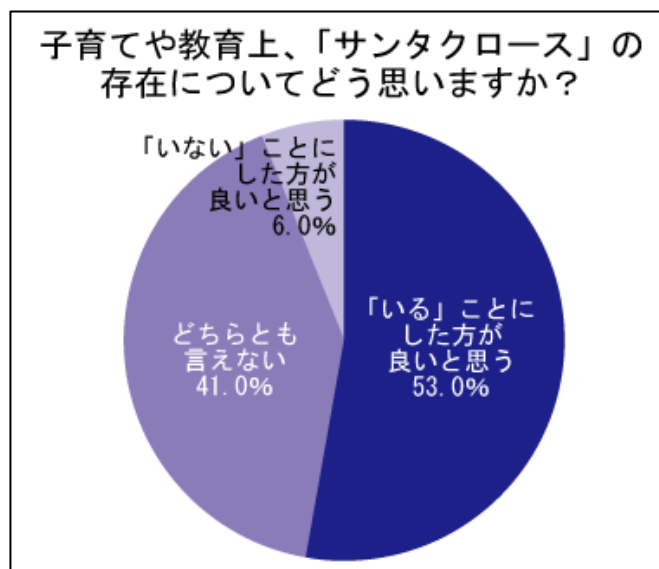


### 4. 半数以上の親たちが、「サンタクロース」は『『いる』ことにした方が良い』と考えている。

最後に「子育てや教育上、『サンタクロース』の存在についてどう思いますか？」という質問をした。結果、『『いる』ことにした方が良いと思う』という人が53.0%、「どちらとも言えない」が41.0%、『『いない』ことにした方が良いと思う』が6.0%だった。

それぞれ理由を聞いた。『『いる』ことにした方が良いと思う』という人からは「夢があるから」という声が多く、具体的には「子どもに夢を与える存在は必要だと思うから」(48歳/男性)や「夢があるし、その方が親も楽しいから」(49歳/女性)などが挙げられた。次いで「想像力が養われるから」という理由が多く、例えば「色々な空想が膨らみ、そこからさまざまなことを考えると思うから」(35歳/女性)や「いつか自分で

気づくまでは、子どもの想像力を大事にしたいから」(43歳/男性)などが聞かれた。他には「自分が親にしてもらって嬉しかったことは引き継ぎたいし、子どもにもそうしてほしいから」(47歳/男性)や「ファンタジーの世界に入り込めるのは子どもの頃だけの特権だから」(33歳/女性)、「身近な大人以外が1年間の行いを見てくれていると思えること、自らの頑張りを振り返ることができるのは子どもにとって効果的だと思うから」(38歳/男性)などが挙げられた。



「どちらとも言えない」という人から最も多く挙げたのは「子どもに合わせる」という声で、具体的には「子どもは自然と理解していただろうし、その時の子どもの様子に合わせれば良いと思う」(42歳／女性)や「早く知ってしまうのも良いことではないと思うが、信じる・信じないは本人次第だから」(49歳／女性)などが挙げた。他には「ひとつのイベントとして楽しめれば良いと思うから」(46歳／男性)や「楽しみを奪うのは良くないと思うが、嘘をついたと思わせてしまうのも避けたいので難しい」(32歳／女性)などが聞かれた。また、「『いない』ことにした方が良いと思う」と回答した人からは、「いつかないことに気づくから」(39歳／女性)や「早めに現実を知っておいた方が良いと考えるから」(40歳／男性)などが挙げられた。

子どもが「サンタクロース」を認識している家庭では9割以上が、一度は「サンタクロース」の存在を信じることが分かった。今年のクリスマスも、たくさんの家庭でパパサンタ・ママサンタが活躍することだろう。

オウチーノ de ヨムーノ: <http://www.o-uccino.jp/article/archive/trend/20161117-souken/>